



郷土を愛し 夢と誇りをもつ教育の推進 教育長 小林 祐玄

今年度の「全国学力・学習状況調査」の質問項目の中に「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や希望を持っていますか」というものがあります。市内の小6は肯定的な回答がほぼ県・全国平均と同じなのですが、中3はそれぞれ5ポイント、10ポイント低くなっています。要するに、中学生になると自己肯定感や夢・希望の保有率が低くなるということです。大きな教育課題の一つです。

標題は「佐渡市学校教育基本構想」に掲げた市教育目標の一つです。私は「郷土を愛する学習（佐渡学）」を展開することによって「夢と誇りをもつ子ども」を育成できると考えています。

引用が少し長くなりますが、田中圭一氏（元筑波大学教授・金井出身）が『長谷川元良伝』で「長谷川元良は佐渡相川の人である。しかし、今相川を訪れても、もう長谷川元良の名を知っている人はいない。」とし、三井物産の益田孝、高田商会の高田慎蔵、三菱本社社長の田中完三が佐渡人であったことも今は誰も知らない。それと比べ、西郷隆盛や伊藤博文を知らない薩摩人や長州人はいないであろうと述べています。元良は高千出身の医師で、明治5年に相川で英語を教える洋学校を開いた人です。

郷土の自然や文化を体験や活動を通して学び、郷土の輩出した先人の生き方を学ぶことによって、自分が今育っている「郷土という大地や人々」を誇りに思う心を育むことができます。そして（自分自身もいつかはそうになりたい）という夢や希望を子どもたちの心に芽生えさせてやる教育が必要であると考えています。

交通事故・情報漏洩の未然防止を 管理主事 新発田 靖

平成24年の佐渡市の交通事故・交通違反は1,222件で、1日平均3件発生しました。交通事故の傾向は、次のとおりです。

- 1 高齢者がかかわる事故が多い。
- 2 交差点事故が多い。

1 高齢者がかかわる事故について

「もしかしたら、右折するかもしれない。」
「もしかしたら、一時停止しないで出てくるかもしれない。」
「もしかしたら、横断するかもしれない」等、「もしかしたら…」という思考を十分に働かせて、事故を未然に防ぐことが大切です。

2 交差点事故について

田んぼの中の見晴らしがよいと思われる交差点事故が多発しています。フロントガラス枠に車が隠れてしまうのが原因です。また、見通しの悪い交差点では、一時停止のあと、安全を確認しながらゆっくりと前
に出て、また止まるということができずに事故が起きています。

その他に、シートベルトの未装着・運転中の携帯電話使用、駐車場の接触事故も多いです。駐車の際には、頭から停めるのではなく、安全が確認しやすい形で停めることが事故を防ぎます。事故を未然に防ぐ意識をもってください。

なお、先日、指導要録の電子化にかかわる研修会を実施し、**個人情報の保護**について話をさせていただきました。年度末、様々な個人情報を扱います。**電子データの管理**についても十分に留意していただきますようお願いいたします。



学力向上に向けた確かな「一歩」を！

下越教育事務所
指導主事 上野 昌弘

学校訪問では大変お世話になりました。訪問の際に撮らせていただいた子どもたちの表情、教室環境、教師の姿を見直しながら、それぞれの学校、学級で、子どもたちの実態に即したていねいな指導、いきいきとした学びが展開されていることを改めて実感し、そのご努力に感謝しております。

さて、訪問の際には、次のことをお願いしました。

- ・小中連携した全校体制での学力向上の取組を進めて欲しい。その基盤として、個に着目した学力分析、学力実態や指導実態の小中情報連携を行うこと。
- ・Web配信問題の活用にあたっては、なぜ、この問題が解けないのか、なぜ、この子が解けないのか、指導や授業の実態と関連付けて振り返り、授業改善や個別支援に役立てること。

さて、今の時期、このことを踏まえて「一歩」を踏み出していただけたら幸いです。

- ・小学校のNRTの結果や、学習で心配のある小6児童の情報を基に、中学への引き継ぎ、打ち合わせを行う。
- ・1年間のWeb配信問題で十分な成果を確かめることのできなかった問題や学習内容については、補充指導等の成果があったかどうかを確かめる場を年度末に位置付ける。
- ・学習に心配のある児童生徒について、次年度の支援方針を検討する全校体制の場を設ける。
- ・新学期、前学年の弱点確認と補充指導の計画・準備を具体的に進める。
- ・中学校では、新1年生の状況を教科担任が確認問題等で確かめ、小学校からの引継ぎと照らし合わせて、指導の見通しを立てる場や時間を確保する。

診断問題や学力調査等のデータを基に、自らの指導を振り返り、校内、小中の連携を深め、佐渡の子どもたちの学力向上のため、確かな「一歩」をお願いいたします。

現場ニーズに合った研修講座に

教育指導主事
笹本 芳廣

2月13日の「授業の達人」発表会では、活発な協議をとおして、修了生3名の自主研修成果を検証していただきました。参加された県立学校を含む小・中学校43名の先生方と、指導者、関係校の皆様にご心からお礼を申し上げます。

この発表会をもって当センターの研修講座がすべて終わりました。4月の新任教員研修講座に始まり、19講座（要請訪問を除く）を開催して、延べ約500名の先生方に受講していただきました。

今年度は、学校現場で活躍されている先生方に講師や発表者としてご協力いただきました。お陰様で、参加者アンケートでは、どの講座も満足度は高く、現場のニーズに沿う研修になったことを喜んでいきます。

来年度は、当市学校教育における重点課題解決に主眼を置いて講座内容を精選し、15講座を開講する予定です。また、2回シリーズの講座や県（下越）の支援をいただく講座も準備中です。新規講座としては、2学期後半に人権教育、同和教育研修講座を計画しています。

開設する講座の計画は、3月中にお知らせします。佐小研・佐中研を始め関係教育団体の行う研修事業との重複を避けるとともに、学校現場の実情やニーズに即した研修プログラムを提供したいと考えています。

研修講座に関連する取組としての「学習意欲向上プロジェクト」は、来年度、指定教科の枠を広げ、中学校区で選択できるようにする予定です。プロジェクトの趣旨「学習意欲の向上」を目指して、それぞれの中学校区でこの事業を積極的に活用し、実効性のある取組となるよう期待しています。

今年度の終わりに当たり、当教育センター研修事業の運営に深いご理解と積極的なご援助を賜りました各校の校長先生にご心からお礼申し上げます。